

福島県2050年カーボンニュートラルの 実現に向けた物流業界との共同記者発表



SAGAWA



「みんなでアクション！再配達削減プロジェクト」

簡易型宅配ボックスを活用して再配達を減らしましょう！

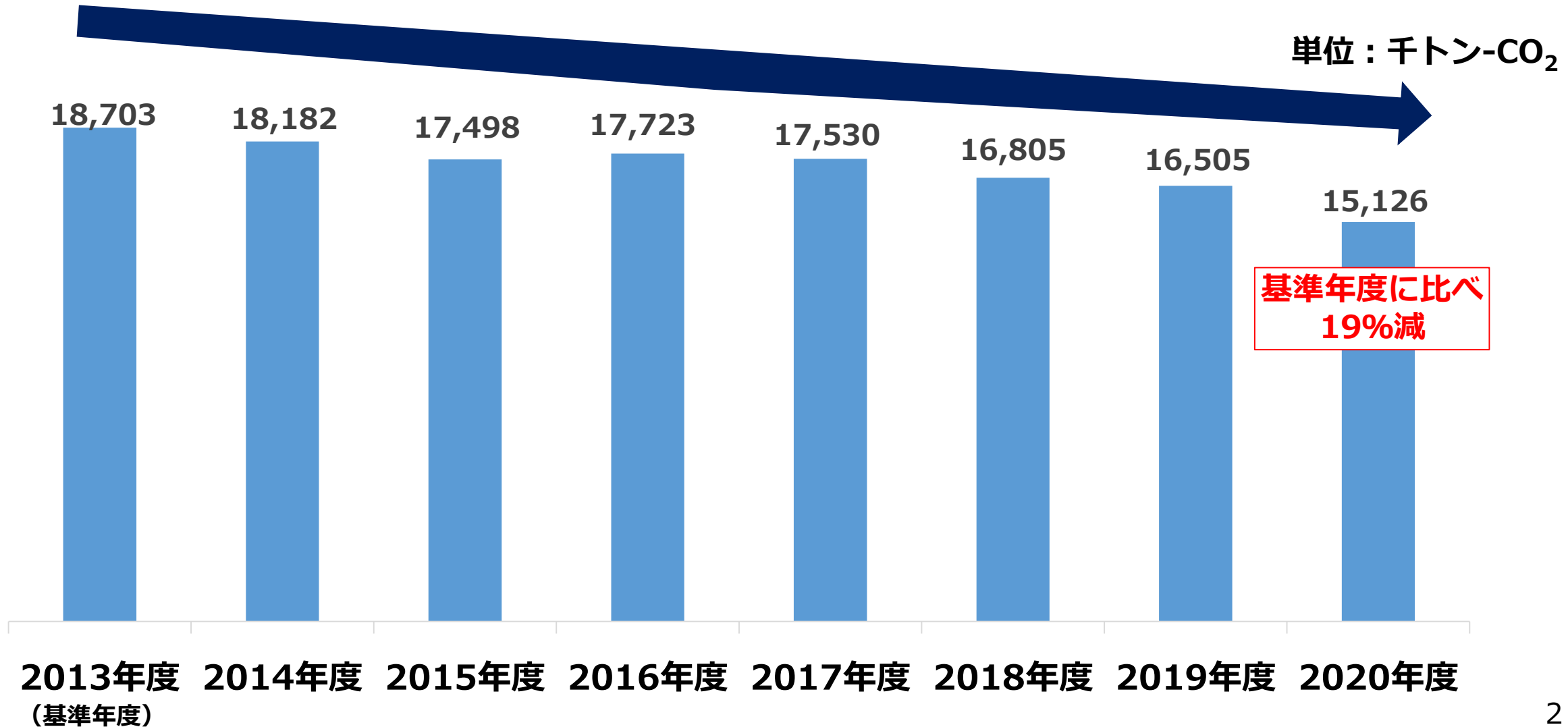
- モニター期間 令和5年10月1日～
令和6年1月3日（約3ヶ月）
- モニター 300世帯※
- アンケート調査 令和6年1月
- 検証公表 令和6年2月

※7/1～7/31 インターネットで募集
1,129件の応募があり、抽選で300世帯を選定



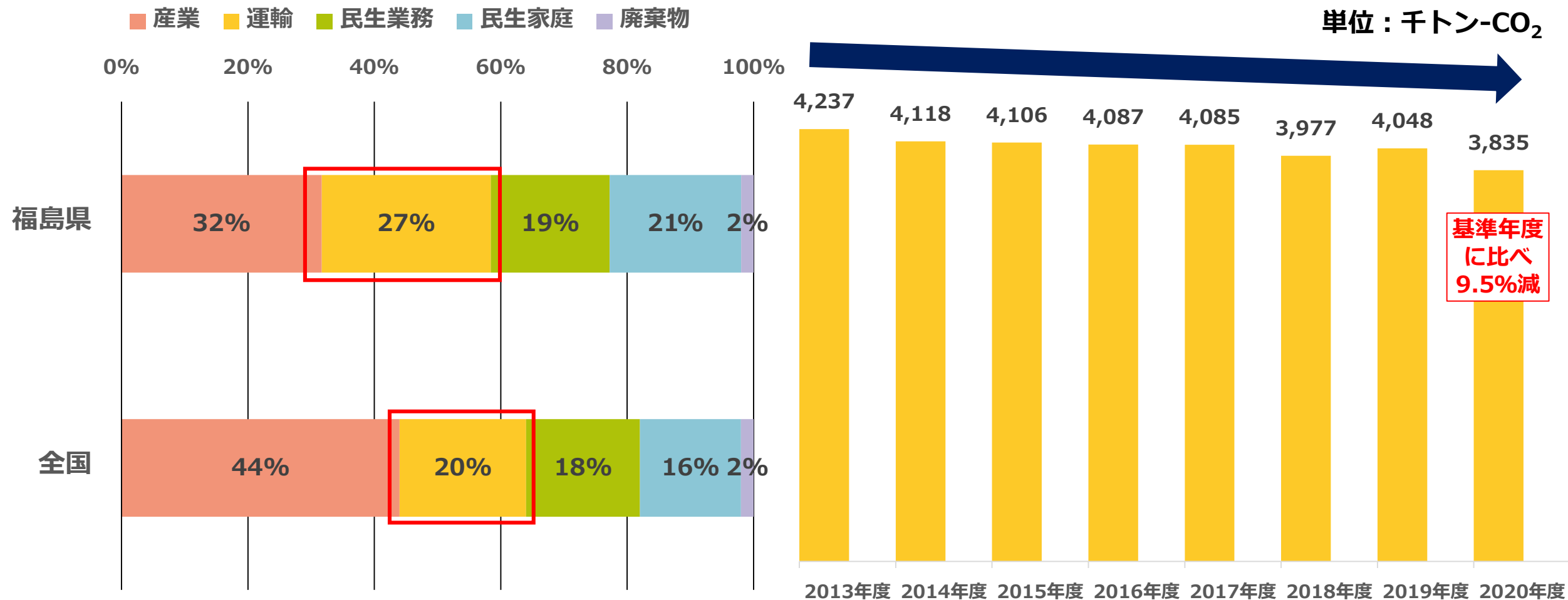
福島県の温室効果ガス排出量（GHG）の現状

➤ 温室効果ガスは低減傾向、対策を継続的に進めていくことが重要



運輸部門のGHGの状況

▶ 運輸部門の割合が大きく、減少幅も小さい



運輸部門の車両等の状況

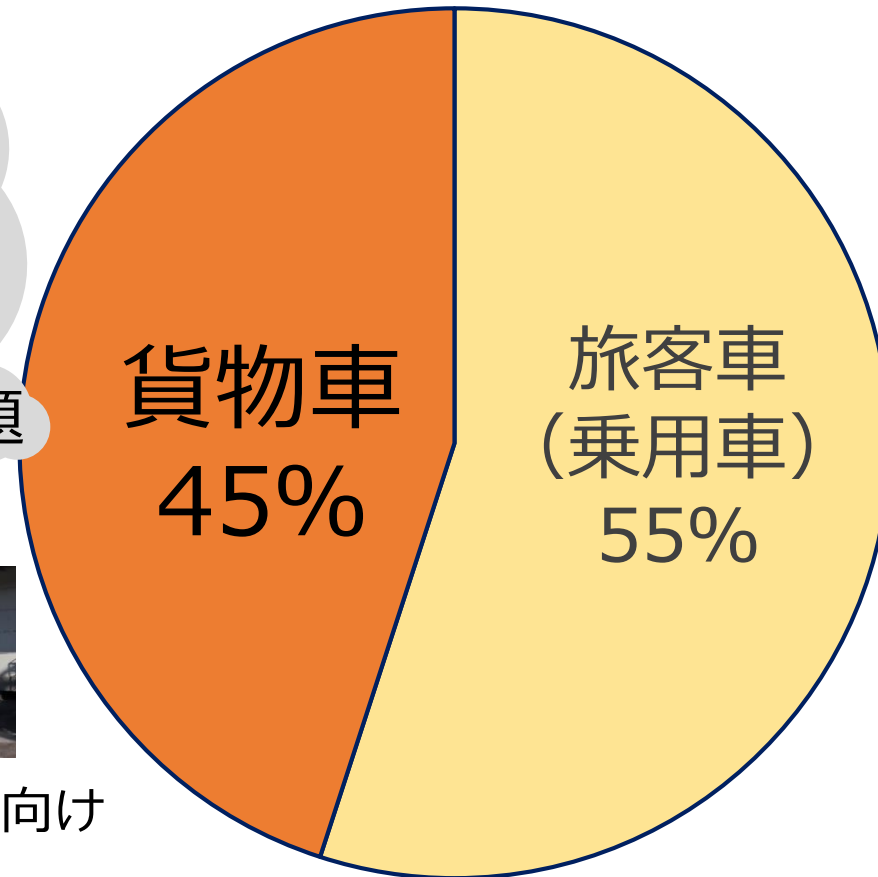
- ▶ 旅客車(乗用車)については、電動車がそろいつつある一方、貨物車はこれから
- ▶ 車両ベースで半分弱が物流関係

- EVトラックの課題
(走行距離、価格)
- 輸送方法、配達方法など、物流業界のCNの課題

実証段階



- 福島での未来のまちづくりに向けた水素の社会実装 等



電気自動車

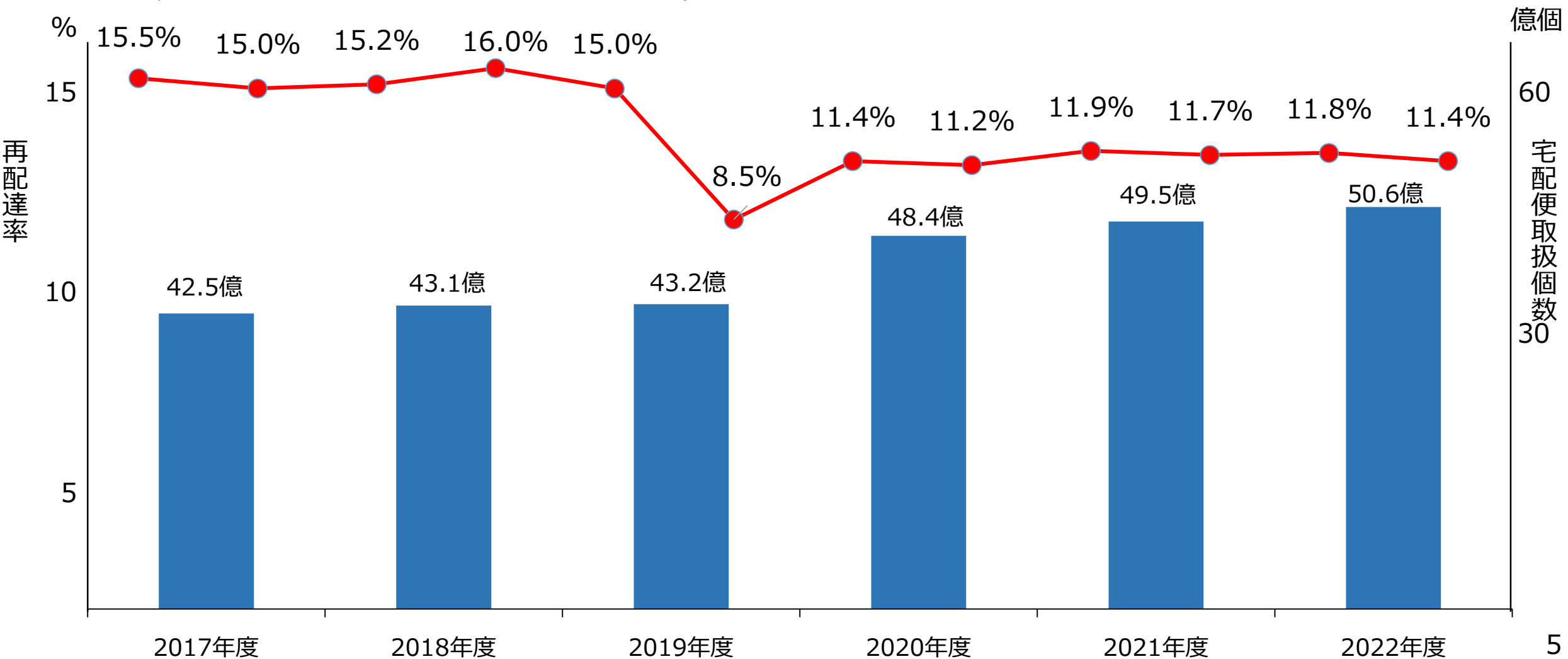


燃料電池自動車

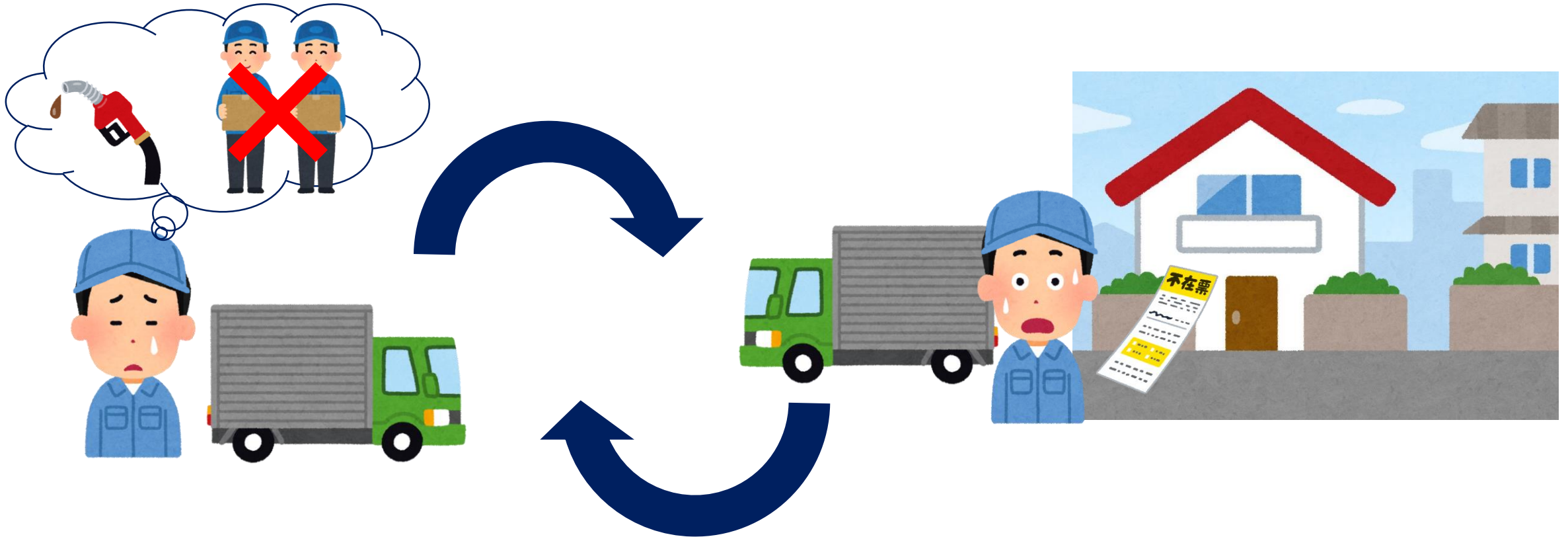
商用化

「再配達」の状況

- 宅配便取扱個数は年々増加傾向
- 再配達率は全体の1割で高止まり



再配達が高止まりすると...



- 燃料費がかさむ
…二酸化炭素排出量が増える
- 人手不足

物流企業の問題
社会全体の問題

再配達の削減が必要

多様な受取方法

- 「置き配」という受け取り手法も検討を
- 「店舗受取」、「宅配ロッカー」を活用した受け取り手法の選択も



置き配



宅配ロッカー「はこぽす」



宅配ロッカー「PUDOステーション」

県民の皆さまへのメッセージ

県民みなんで再配達を減らし、

カーボンニュートラルを推進しよう!